

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 08-016928

(43)Date of publication of application : 19.01.1996

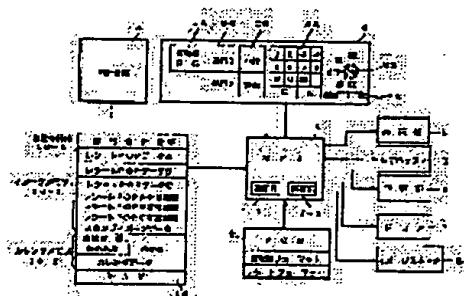
(51)Int.CL	G07G 1/12 G07G 1/12
(21)Application number : 06-170410	(71)Applicant : CASIO COMPUT CO LTD
(22)Date of filing : 30.06.1994	(72)Inventor : OTSUKA HIDENORI IKEDA TORU

(54) SALE DATA PROCESSOR WITH RECEIPT ISSUE FUNCTION

(57)Abstract:

PURPOSE: To issue the receipts which are extremely effective for the customer service and the sales promotion by printing the image data reproducing the contents of leaflets, etc., and the calendar data showing the regular holidays, the special bargain days, etc., at the prescribed parts of a receipt by a simple input operation.

CONSTITUTION: The image data read by an image scanner 8 are converted into the print width size of a receipt and stored in an image memory 10-2 as the receipt POP data. A calendar memory 10-3 stores the calendar data which are generated based on the time count information acquired by a clock circuit 4 and also the regular holidays and the special bargain days which are optionally designated and inputted. Then the receipt POP data or the calendar data are printed at the end part of the receipt in a totalizing operation mode where the registration is completed for a single transaction.



LEGAL STATUS

[Date of request for examination] 29.06.2001

[Date of sending the examiner's decision of rejection]

[Kind of final disposal of application other than the examiner's decision of rejection or application converted registration]

[Date of final disposal for application]

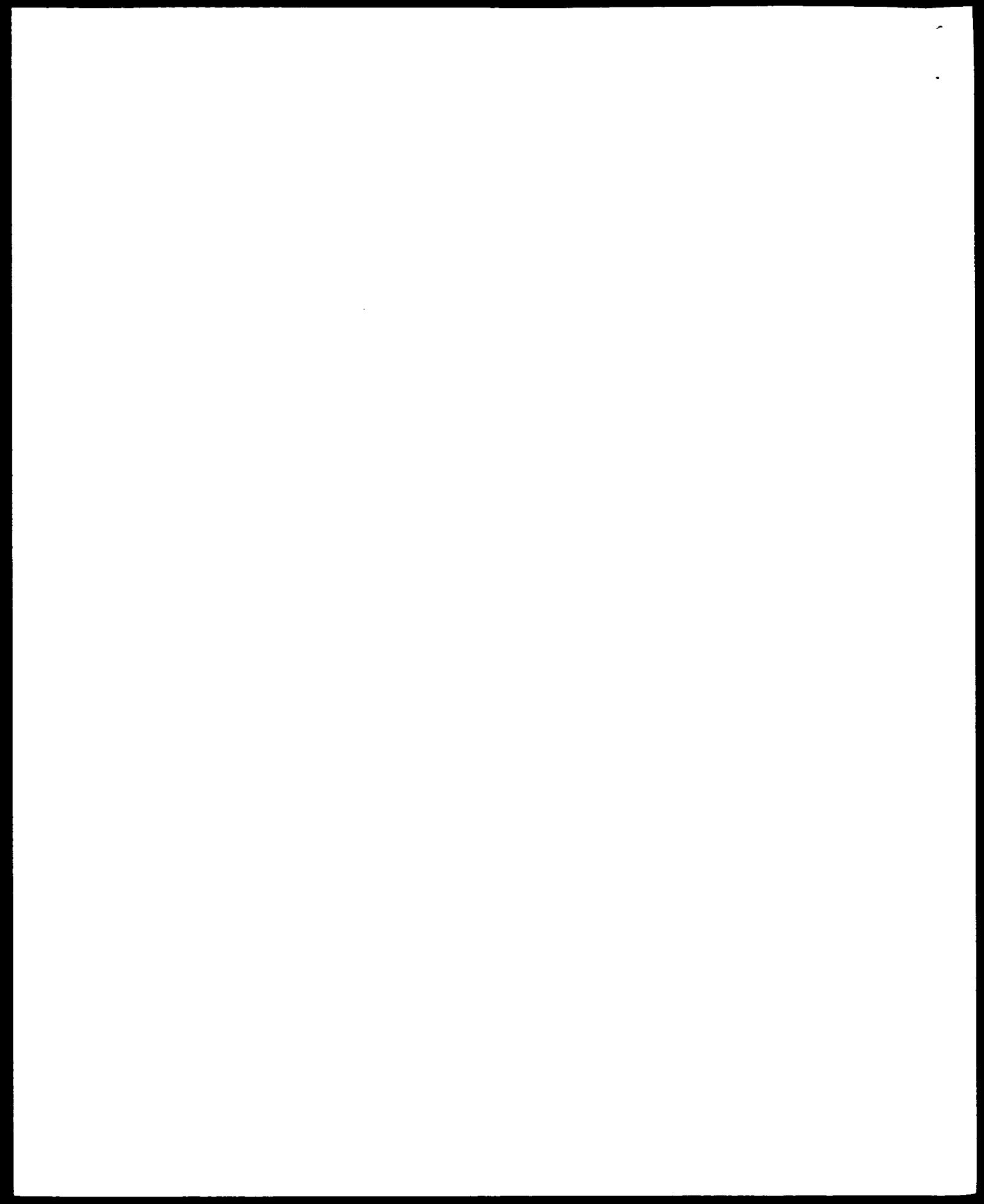
[Patent number]

[Date of registration]

[Number of appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of requesting appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of extinction of right]



(19)日本国特許庁 (JP)

(12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開平8-16928

(43)公開日 平成8年(1996)1月19日

(51)Int.Cl.^o

G 07 G 1/12

識別記号

府内整理番号

F I

技術表示箇所

3 5 1 B

3 4 1 A

審査請求 未請求 請求項の数4 FD (全8頁)

(21)出願番号

特願平6-170410

(22)出願日

平成6年(1994)6月30日

(71)出願人

カシオ計算機株式会社

東京都新宿区西新宿2丁目6番1号

(72)発明者

大塚秀則
東京都羽村市栄町3丁目2番1号 カシオ
計算機株式会社羽村技術センター内

(72)発明者

池田亨
東京都羽村市栄町3丁目2番1号 カシオ
計算機株式会社羽村技術センター内

(74)代理人

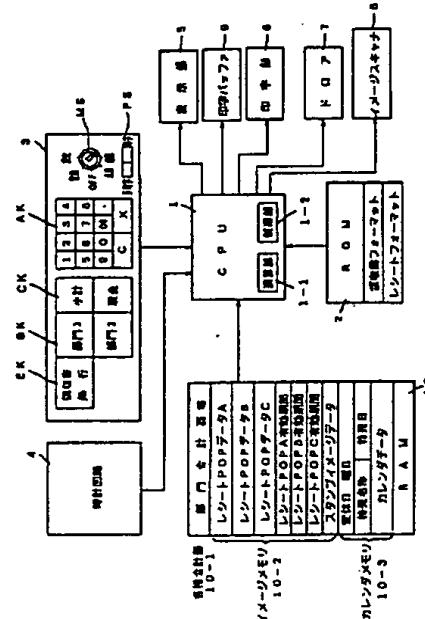
弁理士 杉村次郎

(54)【発明の名称】 レシート発行機能付き売上データ処理装置

(57)【要約】

【目的】 簡単な入力操作で、レシートの所定部分にチラシ広告等の内容をそのまま再現したイメージデータや定休日、特売日等を明示したカレンダーデータを印字することにより顧客サービスや販売促進上極めて効果的なレシートを発行する。

【構成】 イメージメモリ10-2にはイメージスキヤナ8によって読み取られたイメージデータがレシートの印字幅サイズに変換されてレシートPOPデータとして格納されている。カレンダメモリ10-3には時計回路4によって得られた計時情報に基づいて生成されたカレンダーデータと、任意に入力指定された定休日、特売日が格納されている。一取引の登録を終了させる締め操作時にレシートPOPデータあるいはカレンダーデータがレシートの末尾部分に印字出力される。



【特許請求の範囲】

【請求項1】入力された売上データが登録される毎に、その登録データをレシートに印字出力すると共に一取引の登録を終了させる締め操作時にレシートを発行するレシート発行機能付き売上データ処理装置において、イメージデータを読み取るイメージ読取手段と、このイメージ読取手段によって読み取られたイメージデータをレシートの印字幅サイズに変更するサイズ変更手段と、このサイズ変更手段によって変更されたイメージデータを特殊印字データとして記憶するイメージデータ記憶手段と、前記締め操作に応答して前記データ記憶手段から特殊印字データを読み出すことによりレシートの所定部分にイメージデータを印字出力させる印字制御手段と、を具備したことを特徴とするレシート発行機能付き売上データ処理装置。

【請求項2】前記イメージデータ記憶手段内の特殊印字データに対応付けてその印字出力条件を示す有効期間を定め、前記印字制御手段は計時機能で得られた計時情報が前記有効期間内であることを条件に前記イメージデータ記憶手段から対応する特殊印字データを読み出してレシートに印字出力させることを特徴とする請求項(1)記載のレシート発行機能付き売上データ処理装置。

【請求項3】入力された売上データが登録される毎に、その登録データをレシートに印字出力すると共に一取引の登録を終了させる締め操作時にレシートを発行するレシート発行機能付き売上データ処理装置において、計時機能で得られた計時情報からカレンダデータを生成するカレンダ生成手段と、

このカレンダ生成手段によって生成されたカレンダデータを特殊印字データとして記憶するカレンダ記憶手段と、

入力指定された任意の日付を記憶する日付記憶手段と、前記締め操作に応答して前記カレンダ記憶手段から特殊印字データを読み出すことによりレシートの所定部分にカレンダデータを印字出力せると共に、前記日付記憶手段内の日付に対応してカレンダ上の当該日付を識別印字させる印字制御手段と、

を具備したことを特徴とするレシート発行機能付き売上データ処理装置。

【請求項4】前記カレンダ生成手段は計時機能によって得られた計時情報からカレンダデータを生成する際に、計時情報を構成する日付がカレンダ上において当該月のどこに位置するかに応じて印字フォーマットの異なるカレンダデータを生成するようにしたことを特徴とする請求項(3)記載のレシート発行機能付き売上データ処理装置。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】この発明は、入力された売上データを登録すると共にレシートを発行する電子式キャッシュレジスタ(OCR)やPOS(ポイント・オブ・セルス)システム等のレシート発行機能付き売上データ処理装置に関するもの。

【0002】

【従来の技術】一般に、電子式キャッシュレジスタにおいては、入力された売上データが登録される毎に、その登録データをレシートに印字出力すると共に、一取引の登録を終了させる締め操作時に合計金額や釣り銭等を印字出力してレシートを発行するようしている。このようにしてレシートを発行したのち、次の取引用としてレシート用紙には店名スタンプ印刷と日付印字が行われる。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】このように従来のレシート印字内容は、一取引分の登録内容の他に、店名、日付が単に印字されるだけであり、顧客に提供する情報量は極めて少なかった。そこで、任意のメッセージデータを入力可能するために、各種の文字キーを用意することはキーボードの大型化を招くと共に、入力操作が煩雑化するという問題があった。この発明の課題は、簡単な入力操作で、レシートの所定部分にチラシ広告等の内容をそのまま再現したイメージデータを印字することにより顧客サービスや販売促進上極めて効果的なレシートを発行できるようにすることである。この発明の他の課題は簡単な入力操作で、レシートの所定部分に定休日や特売日等を明示したカレンダを印字することにより顧客サービスや販売促進上極めて効果的なレシートを発行できるようにすることである。

【0004】

【課題を解決するための手段】第1の発明(請求項

(1)記載の発明)の手段は次の通りである。入力された売上データが登録される毎に、その登録データをレシートに印字出力すると共に一取引の登録を終了させる締め操作時にレシートを発行するレシート発行機能付き売上データ処理装置において、

(1)、イメージ読取手段はイメージデータを読み取るもので、例えば、チラシ広告等の内容をそのまま読み取るCCDイメージセンサ等である。

(2)、サイズ変更手段はこのイメージ読取手段によって読み取られたイメージデータをレシートの印字幅サイズに変更する。

(3)、イメージデータ記憶手段はこのサイズ変更手段によって変更されたイメージデータを特殊印字データとして記憶する。

(4)、印字制御手段は前記締め操作に応答して前記データ記憶手段から特殊印字データを読み出すことによりレシートの所定部分にイメージデータを印字出力させ

る。なお、特殊印字データはレシートを発行する前に、レシートの末尾部分に印字するようにしてもよいが、レシート発行後、次の取引用として店名、日付と共に、特殊印字データをレシートの先頭部分に印字するようにしてもよい。なお、また前記イメージデータ記憶手段内の特殊印字データに対応付けてその印字出力条件を示す有効期間を定め、前記印字制御手段は計時機能で得られた計時情報が前記有効期間内であることを条件に前記イメージデータ記憶手段から対応する特殊印字データを読み出してレシートに印字出力するようにしてもよい。

第2の発明（請求項（3）記載の発明）の手段は次の通りである。入力された売上データが登録される毎に、その登録データをレシートに印字出力すると共に一取引の登録を終了させる締め操作時にレシートを発行するレシート発行機能付き売上データ処理装置において、

（1）、カレンダ生成手段は計時機能で得られた計時情報からカレンダデータを生成する。

（2）、カレンダ記憶手段はこのカレンダ生成手段によって生成されたカレンダデータを特殊印字データとして記憶する。

（3）、日付記憶手段は入力指定された任意の日付を記憶する。

（4）、印字制御手段は前記締め操作に応答して前記カレンダ記憶手段から特殊印字データを読み出すことによりレシートの所定部分にカレンダデータを印字出力させると共に、前記日付記憶手段内の日付に対応してカレンダ上の当該日付を識別印字させる。なお、識別印字は例えば白抜き、網目、アンダーライン、マル付き数字等である。なお、前記カレンダ生成手段は計時機能によって得られた計時情報からカレンダデータを生成する際に、計時情報を構成する日付がカレンダ上において当該月のどこに位置するかに応じて印字フォーマットの異なるカレンダデータを生成するようにしてもよい。

【0005】

【作用】第1の発明の手段の作用は次の通りである。いま、チラシ広告の内容をそのままイメージ読み取手段によりイメージデータとして読み取ると、このイメージデータはサイズ変更手段でレシートの印字幅サイズに変更されたのちイメージデータ記憶手段に記憶保持される。ここで、一取引の登録を終了させる締めキーが操作されると、それに応答してイメージデータが印字制御手段の制御によってレシートに印字出力される。したがって、簡単な入力操作で、レシートの所定部分にチラシ広告等の内容をそのまま再現したイメージデータを印字することにより顧客サービスや販売促進上極めて効果的なレシートを発行することができる。第2の発明の手段の作用は次の通りである。すみ、定休日や特売日等を入力指定し日付記憶手段に記憶しておき、一取引の登録を終了させる締め操作に応答してカレンダ記憶手段のカレンダデータがカレンダ生成手段で生成したカレンダデータをカレ

ンダ記憶手段に記憶しておく。そして、印字制御手段の制御によって印字出力されると共に、入力指定され記憶された日付に対応するカレンダ上の日付が識別印字される。したがって、簡単な入力操作で、レシートの所定部分に定休日や特売日等を明示したカレンダを印字することにより顧客サービスや販売促進上極めて効果的なレシートを発行することができる。

【0006】

【実施例】以下、図1～図8を参照して一実施例を説明する。図1は電子式キャッシュレジスタ（ECR）のブロック構成図である。CPU演算部1-1、制御部1-2を有し、ROM2内の各種プログラムにしたがってこのECRの全体動作を制御する中央演算処理装置であり、ROM2内の入出力制御プログラムにしたがってCPU1にはその周辺デバイスである入力部3、時計回路4、表示部5、印字部6、ドロア7、イメージスキャナ8に対してその入出力動作を制御する。

【0007】入力部3は通常備えられている置数キーAK、部門キーBK、小計キーCK、現金キーDK、領収書発行キーEK等の他、モードスイッチMSを有し、更に本実施例特有の特殊印字指定スイッチPSを有している。ここで、モードスイッチMSはその切替位置に応じて「設定」、「登録」、「OFF（電源オフ）」、「点検」、「精算」の各モードを切り替える。特殊印字指定スイッチPSはレシートの末尾部分に特殊印字（チラシ広告等の内容をそのまま再現したデータ印刷や定休日や特売日等を明示したカレンダ印刷）を行わせるか否かを指定するためのスライドスイッチである。モードスイッチMSを「登録」位置にセットした登録モードにおいて、CPU1は入力部3から売上データが入力される毎に、RAM10に設けられている部門別、担当者別等の各種合計器10-1の内容を更新することによって売上データを登録すると共にその登録データを表示部5から表示出力させたり、印字部6内のレシート／ジャーナルに印字出力させる。

【0008】印字部6はレシート／ジャーナル印字を行う2連装プリンタで、レシート用プリンタはサマルプリンタによって構成されており、印字バッファ9内にセットされたグラフィックデータを印字出力する。なお、RAM2内には領収書用の印字フォーマットおよびレシート用の印字フォーマットが記憶されており、これらの印字フォーマットにしたがった領収書やレシートが印字部6から発行される。イメージスキャナ8はチラシ広告等をスキャニングして読み取るもので、このRAM10によって読み取られたイメージデータはRAM10に格納される。

【0009】RAM10は各種合計器10-1の他に、イメージメモリ10-2、カレンダメモリ10-3等を有する構成となっている。イメージメモリ10-2はイメージスキャナ8によって読み取られたイメージデータ

を4種類記憶可能な構成で、そのうちの3種類はチラシ広告等から読み取ったイメージデータ（以下、レシートPOPデータと称する）A、B、Cであり、他の1つはワードプロセッサ等によって作成された店名、住所等の文書をイメージスキャナ8によって読み取ったスタンプイメージデータであり、各イメージデータはレシートの印字幅サイズに変更されてイメージメモリ10-2に格納される。また、イメージメモリ10-2にはレシートPOPデータA、B、Cに対応してその印字出力条件を示す有効期間が設定されており、時計回路4によって得られた計時情報に基づいてCPU1は有効期間内にあるPOPデータを選択的に読み出す。カレンダメモリ10-3は予め入力部3から任意に入力された定休日（曜日）、特売日、特売名称を記憶すると共に、時計回路4で得られた計時情報に基づき自動生成されたカレンダデータを記憶するもので、曜日や特売名称を文字入力する際に本実施例においては1文字づつ入力する方式は採用せず、予め所定のキーに曜日や特売名称を割り当てておくことによりワンキー操作によって入力するようにしている。ここで、時計回路4によって得られた現在の日付に基づいてCPU1は七曜日分のカレンダデータを生成し、カレンダメモリ10-3に格納する。この場合、CPU1は現在の日付が当該月のどの位置にあるかによって印字フォーマットの異なるカレンダデータを生成する他に、カレンダデータの印字時にはカレンダ上における定休日、特売日に該当する日付が識別印字される。図7(A)、(B)はカレンダデータの印字フォーマットを示している。ここで、図7(A)は現在の日付に該当する月のカレンダをそのまま印字する場合のフォーマットXであり、(B)は現在の日付に該当する月のカレンダの後半部と翌月のカレンダの前半部を印字する場合のフォーマットYである。このように現在の日付が当該月のカレンダのどの位置にあるかによって印字フォーマットを変えるのは、定休日、特売日をカレンダ上に明示するためであり、現在の日付が例えば30日や31日であるときに当該月のカレンダをそのまま印字したとしても無意味なものとなるからである。また、図7に示すように定休日は白抜き数字、特売日はマル付き数字によって明示するようにしている。

【0010】次に、本実施例の動作を説明する。図2は登録モード下での動作を示したフローチャートである。先ず、キー入力待ち状態において（ステップA1）、キー入力が行われると、一取引の登録を終了させる現金キー等の締めキーが操作されたかをチェックする（ステップA2）。いま、部門別登録等が行われた場合にはそれに応じた登録処理が行われる（ステップA3）。この場合、入力された売上データに基づいて各種合計器10-1の内容が更新されると共に、その登録データがレシート/ジャーナルに印字出力される。

【0011】一方、締めキーが操作されると、通常と同

様に合計金額、預かり金、釣り銭、メッセージデータ、担当者No、レシートNoがレシート/ジャーナル印字される（ステップA4）。そして、CPU1は特殊印字指定スイッチPSのオン/オフ状態をチェックする（ステップA5）。いま、特殊印字指定スイッチPSがオン、つまり、特殊印字が指定されている場合には、時計回路4から計時情報を読み出してイメージメモリ10-2内のレシートPOPデータA、B、Cに対応する有効期間と比較する（ステップA6～A8）。ここで、現在の日付がPOPデータAの有効期間内であれば（ステップA6）、イメージメモリ10-2からこのPOPデータAを読み出して印字バッファ9にセットするが（ステップA9）、POPデータBの有効期間内であれば（ステップA7）、このPOPデータを印字バッファ9にセットし（ステップA10）、更に、POPデータCの有効期間内であれば（ステップA8）、このPOPデータCを印字バッファ9にセットする（ステップA11）。そして、印字バッファ9内にPOPデータがセットされていることを条件に（ステップA12）、この印字バッファ9内のPOPデータをレシートに印字出力させる（ステップA13）。

【0012】次に、ステップA14に進み、各種合計器10-1を構成する担当者別合計器や取引合計器の内容を今回の一取引分の登録結果に基づいて更新する処理を行う。なお、ステップA5で特殊印字指定スイッチPSのオフが検出された場合、あるいはステップA12でPOPデータが印字バッファ9にセットされていないことが検出された場合にはそのままステップA14の合計器処理に移る。このようにして一取引分の処理が終了すると、レシートを発行すると共に（ステップA15）、次の取引用としてイメージメモリ10-2からスタンプイメージデータを読み出してレシートの先頭部分に印字出力させ（ステップA16）、更には時計回路4から計時情報を読み出してレシートに印字出力させる（ステップA17）。図3は上述のようにしてレシートPOPデータが印字出力された場合のレシート印字例を示し、レシートの先頭部分にはスタンプイメージデータと日付印字が行われ、その後に一取引分の登録内容が順次印字出力され、最後にPOPデータがグラフィック印字される。

【0013】一方、現在の日付がレシートPOPデータA、B、Cに対して何れもが有効期間が過ぎていることが検出された場合には（ステップA6～A8）、カレンダ印字が行われる（ステップA20）。また、レシート発行後において（ステップA15）、顧客から領収書の発行が要望されて領収書発行キーEKが操作された場合には（ステップA18）、領収書発行処理が行われる（ステップA19）。図4、図5はカレンダ印字処理を示したフローチャート、図6は領収書発行処理を示したフローチャートである。

【0014】先ず、カレンダ印字処理に入ると、現在の

日付に基づいてカレンダ印字のフォーマットを決定するために日付サーチ処理が行われる(ステップB1)。即ち、時計回路4で得られた現在の日付が「1日～8日」、「9日～14日」、「15日～31日」かをチェックする(ステップC1)。ここで、現在の日付が「1日～8日」の範囲内であれば、カレンダ印字フォーマットとして図7(A)に示すフォーマットXを選択し(ステップC2)、「15日～31日」の範囲内であれば、図7(B)に示すフォーマットYを選択する(ステップC3)。また、「9日～14日」の範囲内であればステップC4に進み、9日がカレンダ上において、当該月の何段目に位置しているかをチェックする。ここで、9日が2段目であれば、フォーマットXを選択し(ステップC2)、3段目であればフォーマットYを選択する(ステップC3)。

【0015】このような日付サーチ処理によってカレンダ印字のフォーマットを決定すると、図4のステップB2に進み、選択的に決定した印字フォーマットにしたがってカレンダデータを生成し、カレンダメモリ10-3に格納する。この図7のような場合、七曜日5段のカレンダデータが生成される。そして、カレンダメモリ10-3から特売日をサーチし(ステップB3)、その結果、カレンダメモリ10-3内に特売日が入力設定されている場合において、その特売日に該当する日付がカレンダデータ内に存在していれば(ステップB4)。その特売日に対応するカレンダ上の日付を識別するためにその日付をマル付き数字に修飾する(ステップB5)。次に、カレンダメモリ10-3から定休日をサーチし(ステップB6)、その結果、定休日に該当する日付がカレンダデータ内に存在していれば(ステップB7)、その定休日に対応するカレンダ上の日付を識別するためにその日付を正方形の黒をバックとする白抜き数字に修飾する(ステップB8)。そして、カレンダメモリ10-3からカレンダデータを読み出して印字バッファ9にセットするが(ステップB9)、その際、カレンダデータ内の日付が修飾されていれば、修飾された日付が何を意味するかを示すために修飾内容毎に定休日や特売名称も印字バッファ9にセットされる。そして、印字バッファ9内のデータをレシートに印字出力させる(ステップB10)。これによって、図7(A)、(B)に示すようなカレンダデータがレシートの末尾部分に印字出力される。

【0016】次に、図6に示す領収書発行処理について説明する。先ず、このフローに入ると、ROM2から領収書フォーマットを読み出して印字バッファ9にセットする(ステップD1)。次に、小計データを領収書の金額欄にセットと共に(ステップD2)、イメージメモリ10-2からスタンプイメージデータを読み出して領収書の所定位置にセットする(ステップD3)。次に、領収書NoおよびレシートNoを領収書の所定位置にセ

ットすると共に(ステップD4)、元号および時計回路4で得られた年月日、更にはRAM10内にセットされている現在担当者名を領収書の所定位置にセットする(ステップD5)。このようにして印字バッファ9にセットしたデータを90°回転させて縦イメージデータに変換すると共に(ステップD6)、この変換データをレシートに印字出力させ(ステップD7)、領収書を発行する(ステップD8)。図8はこのようにして作成発行された領収書の印字例を示し、この領収書内にはイメージキャナ8によって読み取られたスタンプイメージデータも印字出力されることになる。

【0017】以上のように本実施例においては、イメージキャナ8によってチラシ広告等から直接読み取ったイメージデータをレシートの印字幅サイズに変更してイメージメモリ10-2内にレシートPOPデータとして複数記憶しておくと共に、各レシートPOPデータに対応付けてその有効期間を設定しておくことにより、一取引の登録を終了させる締め操作時に現在の日付と有効期間とを順次比較し、有効期間内にあれば、レシートPOPデータA、B、Cの優先順位にしたがって1つのPOPデータを選択してレシートの末尾部分に印字出力するようにしたから、レシートを広告媒体としても使用することが可能となる。また、各POPデータの有効期間が全て過ぎている場合にはカレンダデータをレシートに末尾部分に印字するようしているが、この場合、カレンダ上には定休日や特売日が識別印字されるので、顧客サービスや販売促進上極めて有効なものとなる。更に領収書印字時にはその印字フォーマットと共に、イメージキャナ8によって読み取られたイメージデータも領収書に印字出力することができる。この場合、レシート印字用のスタンプイメージデータを領収書に共用して印字するようにしたから領収書の印字フォーマットを設定する場合、その部分の設定が不要となり、フォーマット設定が容易となる他にその変更も簡単に行える。また、特殊印字指定キーPSによって特殊印字を行うか否かを任意に指定することができるので、例えば、客が混雑している場合には特殊印字を行わず、比較的客の少ないときに特殊印字を行うことが可能となる。

【0018】なお、上記実施例はレシートPOPデータに有効期間を設定するようにしたが、全て有効期間内にあるPOPデータのみをイメージメモリ10-2に設定しておき、一顧客毎あるいは一日毎に複数のPOPデータをサイクリックに1つづつ選択してレシート印字したり、一取引の合計金額に応じたPOPデータや買上げ商品に応じたPOPデータを選択的にレシート印字するようにもよい。また、上記実施例はレシートPOPデータやカレンダデータをレシートの末尾部分に印字するようにしたが、レシートの先頭部分に印字するようにしてもよい。この場合、一取引の登録終了時に次の顧客用としてスタンプイメージデータ、日付印字に統いてレシ

一トPOPデータやカレンダデータを特殊印字するよう
にすれば、締め操作時の金銭授受等の空時間を利用して
特殊印字を行うことができる。また、特殊印字を時間帯
に応じて行うか否かを指定するようにしてもよい。

[0019]

【発明の効果】この発明によれば、簡単な入力操作で、レシートの所定部分にチラシ広告等の内容をそのまま再現したイメージデータや定休日、特売日等を明示したカレンダーデータを印字することにより顧客サービスや販売促進上極めて効果的なレシートを発行することができる、レシートを広告媒体としても活用することができる、実用性が極めて高いものとなる。

【図面の簡単な説明】

【図1】実施例に係る電子器キャッシュレジスタのブロック構成図

【図2】登録モード下での動作を示したフローチャート

【図3】ヒシートの印字例を示した図

【図1】図3の3重マスクA-3-2（主に1750nm波長）

10 説明するためのフローチャート。

【図5】図4のステップB1(日付サーチ処理)を説明するためのフローチャート。

【図6】図2のステップA19(領収書発行処理)を説明するためのフローチャート

【図7】カレンダ印字用のフォニーフラットを示した図

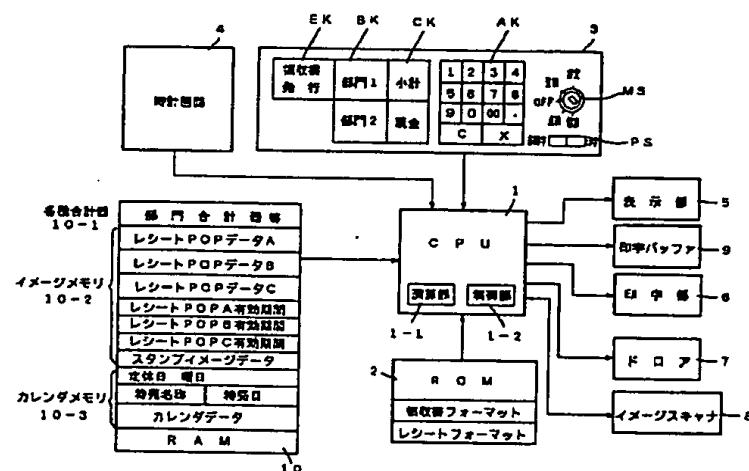
【図8】領収書の印字例を示した図

【図3】該収集

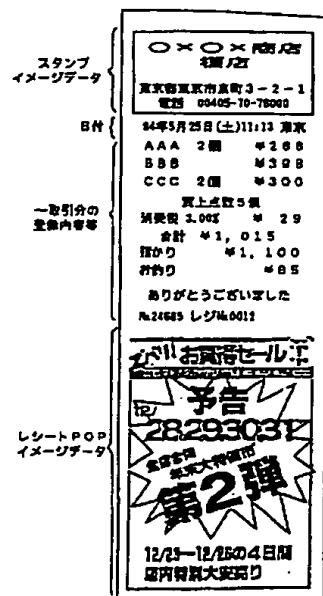
- 1 CPU
- 2 ROM
- 3 入力部
- 4 時計回路
- 5 印字部
- 8 イメージスキャナ
- 9 印字バッファ
- 10-1 各種合計器
- 10-2 イメージメモリ
- 10-3 カレンダメモリ

P.S. 特殊印字指定スイッチ

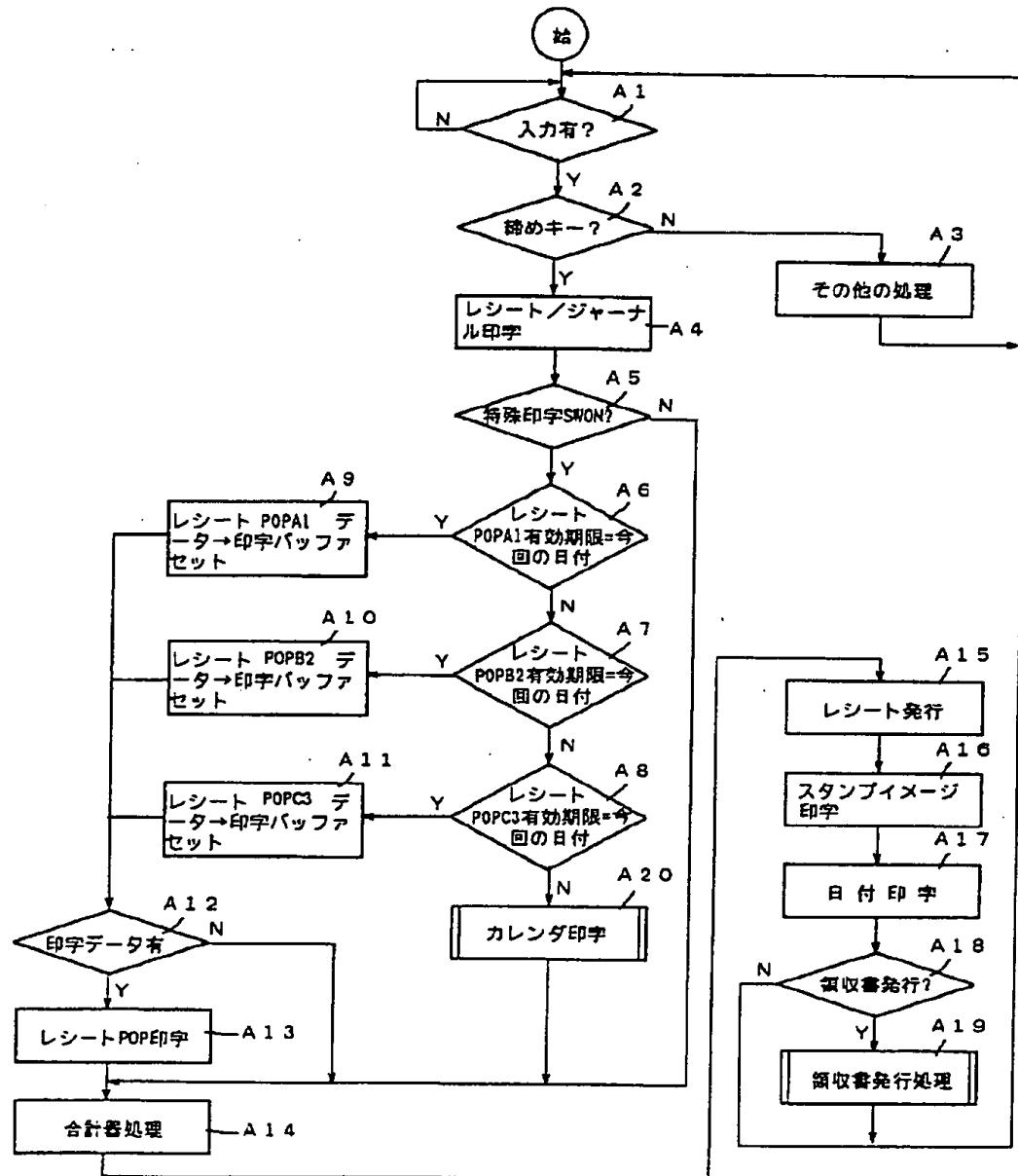
〔图 1〕



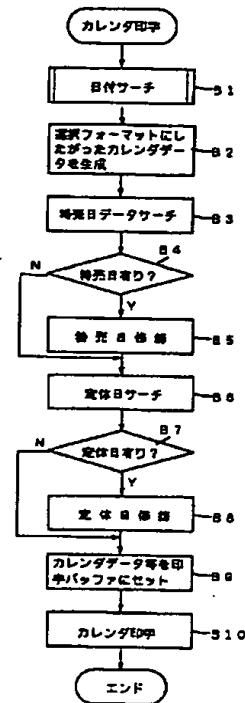
[圖3]



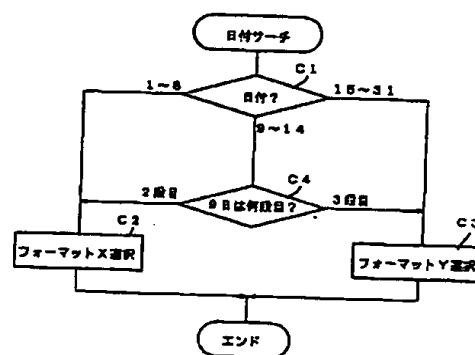
〔図2〕



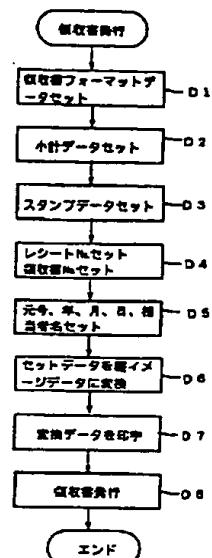
【図4】



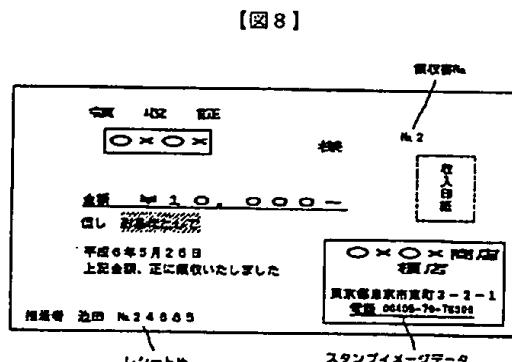
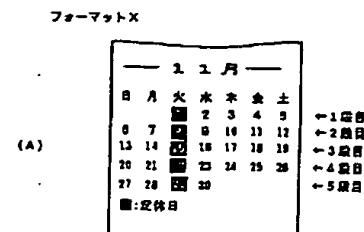
【図5】



【図6】



【図7】



フォーマットY

